
仮面ライダーカブト NEXT LEVEL 進化し続ける三人目のカブト

想像屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーカブト NEXT LEVEL 進化し続ける三人目のカブト

【Nコード】

N08650

【作者名】

想像屋

【あらすじ】

ある幼き少年は7年前のあの日、宇宙がちつぽけな落し物をしたせいで親を失ったそして、彼はあの日、失ったと同時に自分の姉をそして、人間をそして、ワームを救う力を手に入れた。その力は、カブト ダイクカブト ガタック 太陽神暗黒神戦いの神のどれとも違う無敵の神、破壊神と守護神、相反する二つの名を同時に持つ禁断の力、『ネクストゼクター』の資格者に選ばれた幼き少年、『しんどう すすむ 進道進』彼がネクストゼクターで変身するのは、進化の力、仮面ライダー『NEXT KABUTO』ネクストカブト

彼は、この力を使い人間（ZECT）にワームそして、それぞれが皆違う志を持つライダーの資格者たちとの己が理想をかけた戦いに参戦する少年の真の目的、ワームと人間の共存そして真の平和のためは今、進化する

（前書き）

今回、自分の中では中々いいアイディアが出たので初の仮面ライダーの作品を投稿します

その際には

がんばって最後まで書きますのでどうか読み続けていただければ嬉しい限りです

クロスオーバの件は、本当に大歓迎でこちらからお願いしに行くかもしれません

ではどうぞ

感想ください

この物語は、渋谷隕石の日にライダーの資格者に選ばれた天道総司
ともう一人の少年がライダーの資格者に選ばれた

その少年が選ばれた力は、太陽神、暗黒神、戦いの神、のどれにも
属さない禁断の力

守護神と破壊神の力を合わせ持つ戦士仮面ライダー『NEXT K
ABUTO』の力に……

ここは、東京タワーの見える夜の駐車場

女性

「きゃっああああああああ！誰か助けて〜」

つと叫びながら逃げている女性がいた

その後ろをぞろぞろと10体の体色は緑色の蛹の様な姿の宇宙人通
称ワームが追いかけていた

女性は、全力で逃げるも屋上の端まで追い込まれてしまい

絶体絶命であつた

女性

「来ないで」

ワーム

「ぎゃぎゃぎゃ」

徐々に女性に近づいていった

そのとき、

????

「君たち!! やめなよ。その人が可哀想だろ?」

ワームたちは、その声の方向に振り向いた

そこには、髪の色が若干茶色で前髪が二本の触覚のようになっていた変わった髪形で身長は、140センチくらいで顔は幼く体はきしやな感じで小柄な少年が立っていた

少年

「今なら何もしないで許してあげるよ」

つと笑いかけた

すると

ワームの一匹が少年に襲い掛かった

すると

そのワームに空から白銀の閃光が襲い掛かった

ワームは、地面に転がった

ほかのワームたちは、その光景を見て後退した

その閃光は、まるで威嚇するかのように少年の周りを飛び回っている

そして、少年が手を前に出すとその閃光が少年の手に止まった

少年

「おい！ネクスー人が折角交渉しようとしてるのにいきなり突き飛ばすなんて酷いだろ？もしかしたらむこうが握手しに来たのかも知れないのにさ」

それは無いと思います・・・汗（作者）

少年

「まあいいやこつちから先に手を出しちゃったからすぐに逃げてくれれば殺さないよ」

少年は、にこやかな笑顔で言った後

少年は、自分の大人（身長１７７センチ）の姿に擬態し

ベルトを腰に巻き

大人の声で

青年？

「行くよ、変身！！」

右手に持った白銀の閃光をベルトの正面に差し込んだ（電王のモモタロスの変身の時のライダーパスのスライドのさせ方で）

閃光

「evolution（進化）」と女性の声で言った

その瞬間、青年の体を白銀の閃光に包まれた

そして、光の中から

ベルトの正面に白銀のカブトムシのような機械を装着し体を白と銀色の分厚い装甲を足や手そして上半身にまるで脱皮する前の昆虫のように装着し頭は緑色の目の間に巨大な白銀のカブトムシの角のようなものを生やした

仮面ライダーネクストカブト（ファーストレベル）

が立っていた

そして、腕を組み

ネクスト

「今、逃げるんなら追いかけるはないよ」

つと一歩一歩ワームたちに近寄り始めた

するとさっきネクストゼクターに吹っ飛ばされたワームと3匹のワームが逃げ出した

ネクスト

「逃げるのも勇気だよ　で、君たちは殺る気？」

つと殺気を出しながら尋ねた

すると3匹のワームが逃げ出した

ネクスト

「もう悪さしちゃだめだぞ」つと逃げていったワームに大声で言った

ネクスト

「君たちは逃げてくれないんだね」

するとワームたちが脱皮した

蛹形態から成虫形態に進化した

三匹とも蜘蛛のワームのようである

ネクストは、腰からカブトクナイガンの様な物を取り外すとそのクナイの刃を伸ばした

このアイテムは、カブトクナイサーベルつまりくないとサーベルを

合体させたような武器である

そして、剣を構え

ネクスト

「せめて・・・苦しまずに天国にいきな」

その瞬間、蜘蛛1がクロックアップを使いネクストに接近してきた

クロックアップ

超高速の特殊移動方法。ワーム成虫体や各ライダーフォームが、体を駆け巡るタキオン粒子を操作し、時間流を自在に行動できるようになることで行う。ワームは自らの意思で、ライダーの場合は腰部のベルトにあるスイッチに触れることにより発動する。スイッチはバックル中心部の両脇にあり、カブト・ガタック・ダークカブトはプッシュ式のスラップスイッチ、他ライダーはスライド式のトレイススイッチである。クロックアップを発動したライダー及びワームは超高速での移動が可能となる（by WIKI）

本来なら追いつけるはずがないスピードの攻撃をネクストは軽く交わし

ネクストゼクター上部の脚3本それぞれに内蔵されたスイッチ・フルスロットルを「1、2、3」の順に押した後、ゼクターホーンを反対側に倒し再び下の方に戻した後、

「安らかに眠れ・・・Rider Slash」の発声とともに

R i d e r S l a s hとネクストゼクターから女性の声がでた
ネクストゼクターから波動に変換されたタキオン粒子をカブトサー
ベルに集中させて蜘蛛のワームを立て横斜めに切り裂いた

ワームは、叫び声をあげる間も無く爆発した

ネクスト

「どうする？君たちも逃げるんなら追わないけど？」

つとサーベルをプラプラさせながら近づいていった

すると残りの二匹もクロックアップを使いネクストを挟み撃ちにし
ようとしたが

ネクストは、再びクロックアップを発動させず（少なからずスイッ
チを押さず）にクロックアップ並のスピードでもう肩一步の腰から
同じくカブトクナイサーベルを取り外し

二つの持つところを合体させそれを伸ばし（2.5メートル）カブ
トジャベリンに変形させ

二体のワームを同時に貫いた

ワームたちは、腹部を完全に貫かれ完全に串刺し状態になっていた

ネクスト

「悪いけど僕は、常にクロックアップの世界にいるからクロックア
ップの不意打ちは通用しないよ」

これがネクストカブトを装着するものだけに許されるabsolute Clock Upシステム

2匹ともじたばたしているが決して槍は抜けない

そして、ネクストカブトは再びネクストゼクター上部の脚3本それぞれに内蔵されたスイッチ・フルスロットルを「1、2、3」の順に押した

そして、

ネクスト

「僕は、死にたくなかったら逃げろって言ったよね？・・・安らかに・・・眠れ・・・Rider Slash」

Rider Slash

今度は、ネクストゼクターから波動に変換されたタキオン粒子をカブトジャベリンに集中させて二体を同時に切り裂こうとした時、

ワームの一匹が擬態した人間の姿を借りて

ワーム

「頼む助けてくれ！！もう人は殺さない俺には、心から愛している娘がいるんだ」

つと叫んだ

するとネクストは、命乞いをしたほうの槍を抜くと残った一匹を切り裂いた

そして、槍を抜かれ腹部を抑えて座り込んでいる

ワームに槍を向け

ネクスト

「君の言葉を信じてあげるよ だけど絶対に娘さんを悲しませるな！！そして、二度と人を襲うなそして守れ何があってもその娘をお前の力で守りぬけ！！君がまた人を襲っていたらその時は、僕が君に地獄のような苦しみを与えてから殺すよ」

人間の姿に擬態したワームは、すぐにその場から立ち去った

横でポカーンとしている女性にネクストは、近づいた

女性は、脅えていたため

ベルトのネクストゼクターを取り外すと

ネクストゼクター

「degenerate（退化）」と女性の声の後

ネクストの変身が解けた

そして、少年が現れた

そして、少年はトコトコ女性に近づき

少年

「お姉さん大丈夫？もうあいつらはいないよ」

女性

「さっきのは？それにあなたは？今のはなに？」

少年

「一辺に聞かれても答えられないよ・・・でも2つだけ言えることがあるよ。今度あんなのに襲われたらすぐに屋外に出てそうすれば僕が必ず助けてあげるこれは約束だよ」

少年は、女性と勝手に指きりをした

少年

「そして、僕の名前は、『進道進』」

そう言い残すと少年は、「やばいや、歩お姉ちゃんに頼まれてたお使い忘れてた！後で殺される」

つとさつそう（わんつと泣きながら）と走っていった

N
E
X
T

c
o
n
t
i
n
u
e

（後書き）

謎の仮面ライダーネクストカブト初登場しかもカブトでは、中々珍しい小学生の子供が資格者です

続編書ければいいな

では会えたらまた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0865o/>

仮面ライダーカブト NEXT LEVEL 進化し続ける三人目のカブト

2010年10月8日12時56分発行